

協議会ニュース 117号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2008.3



Hoary Cress
ホーリー・クレス (豊橋市)

畠の法面、一面真っ白です。何度も通ってやっと畠の方と出会えました。「この花が生えるようになつて10年、お墓のお花に重宝」とのこと。この一画にはナズナやホトケノザは見られません。どんどん増えているんでしょうね。

イラスト・文：中西普佐子

平成20年度 通常総会のお知らせ 支部だより

尾張支部総会報告
奥三河支部総会報告
名古屋支部総会報告
知多支部 秋の研修旅行

会員のページ

ふるさと自慢
私と野鳥
海の生き物紹介 カモメガイ
理事会報告
事務局だより
行事案内・編集部だより

.....P2

山口健.....p3
小山舜二.....p3
滝田久憲.....p4
小川展弘.....p5

樋口祐子.....p7
佐々木和治.....p8
中井康夫p9
.....p10
.....p11
.....p12

平成 20 年度 通常総会のお知らせ

平成 20 年 3 月 20 日（春分の日） 於中京大学文化市民会館（旧名古屋市民会館）

通常総会を下記の通り開催します。総会は愛知県自然観察指導員連絡協議会会員が一同に集う日です。新指導員の方もベテラン指導員の方も、是非出席ください。

尚、当日は同封の「総会資料」と名札を持参下さい。

9:30 役員集合・会場準備

10:00 情報交換及び交流会

■クラフト実演

■クラフト、写真、絵画等の展示及び即売

12:00 終了

～～ 昼食・休憩 ～～

12:40 受付

13:00 総会開会宣言

1・総会参加者数の状況報告

2・平成 19 年度の協議会各理事の紹介

会長：松尾 初 副会長：降幡光宏・鬼頭弘

午前はお茶を飲みながら

クラフトの材料や作成のコツ等、

情報交換しましょう。

マイカップをお忘れなく！

詳細は p11 事務局のページをどうぞ

会計：石田晴子 研修：大谷敏和 保険：布目均

事務局長：近藤記巳子

機関紙：斎竹善行 保全：吉川洋行 調査：吉田彰

HP：永田孝

名簿管理：鬼頭弘 企画：堀田守

観察会：山田博一

名古屋支部長：滝田久憲 知多支部：降幡光宏 西三河支部：三田孝 東三河支部：梶野保光

尾張支部：樋口祐子 奥三河支部：小山舜二 (以上理事 20 名)

監事：岩崎光明・山下眞志 (監事 2 名)

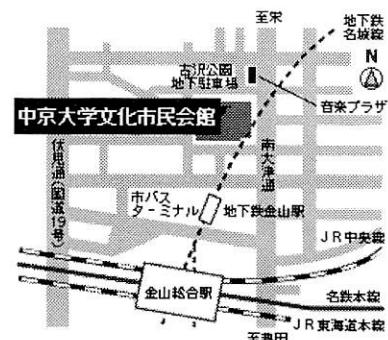
3・松尾会長挨拶

4・総会議長・書記係の選出

13:20

5・平成 20 年度通常総会

①1 号議案 平成 19 年度事業報告



②2 号議案 平成 19 年度決算報告・監査報告

③3 号議案 新理事承認と紹介

④4 号議案平成 20 年度事業 (案)

⑤5 号議案平成 20 年度予算 (案)

⑥会の略称について

⑦協議会に対する要望事項・質疑応答

14:50 総会終了宣言

～～ 休憩 ～～

- ・地下鉄名城線「金山」下車地下連絡通路あり
- ・JR 中央本線 東海道本線「金山」下車北へ徒歩 5 分
- ・名鉄本線「金山」下車北へ徒歩 5 分

15:00 講演会 「地球温暖化について」 愛知教育大学教授：大和田道雄氏

16:00 質問タイム 質疑応答

16:20 閉会・後片付け

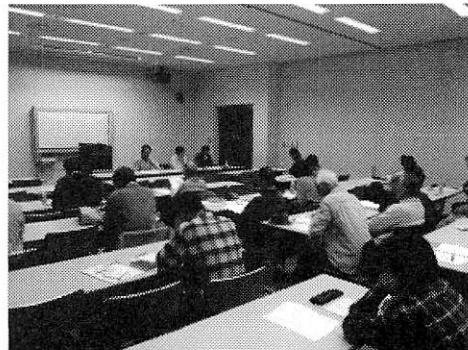
16:30 会場退出

※終了後、希望者懇親会（場所未定：会費 4,000 円程度）

平成20年度尾張支部総会報告

尾張支部 山口 健

平成20年度の尾張支部総会が1月14日に名古屋市東区の東桜会館で23名の出席で行われました。議長に山田さんが選出され、支部長の挨拶のあと、平成19年度の事業実績報告と決算報告及び監査が行われました。19年度の事業実績は定例観察会、小牧市からの委託調査（小牧山、ちごの森、小牧市民四季の森）、八百津町の稻づくりなど各担当者から一年を振り返っての報告がありました。その後、新役



員の選任と平成20年度事業案と予算案が審議され了承を得ました。新役員では会計を新人の山口昌宏さんが引き受けてくださいり、辻さんが明徳公園自然観察会を立ち上げられるなど新たな支部活動のスタートを切ることができました。また私山口が5月25日（日）に海上の森であいの自然観察会（ふるさと親子自然観察会の改名）を開催することを決定しました。総会で出た主な課題として、運営に携わる指導員の数が足りないという定例観察会が何ヵ所かあり、担当者が急に観察会に出られなくなるなど何かあった時に連絡できるシステム作りや窓口の所在を明確にするべきなどという意見もありました。また山田さんから、定例観察会を指導員同士の研修や交流の場としてできるだけ参加する機会を増やすという提案が出されました。

支部長 樋口祐子 副支部長 大谷敏和 会計 山口昌宏
監査 上等トシ 事務局 内海勇夫

平成20年度奥三河支部総会報告

奥三河支部 小山舜二

活動する組織は、愛知県自然観察指導員連絡協議会奥三河支部と奥三河自然保護研究会の会員総数27名から構成されており、平成20年の総会が1月20日（日）、17名（新会員2名を含む）の参加を得て新城観光ホテルで開かれました。

総会では、19年度事業報告、会計報告、本年度事業計画などの議題を審議しました。

「本年度の大きな目玉は、地域に根づいた観察会」「地域の様相を知るために『定点観察』を開き、会員がそれぞれの得意分野で取り組むことが観察員の育成、レベルアップにも繋がり、奥三河の自然の魅力をより一層知ってもらう機会にもなる。」等々闊達な意見が交わされ、新城市を代表する『桜淵』を舞台に3回シリーズで支部観察会を行うことに決まり

ました。

① あいの自然観察会 「新緑の裏谷を訪ねて」 5月 11日(日) 10:00~15:00

② 支部観察会 桜淵自然観察会

第1回 「新緑の桜淵を観察しよう」 4月 13日(日) 9:00~12:00

第2回 「河岸の自然を観察しよう」 7月 20日(日) 9:00~12:00

第3回 「新城城址の自然と史跡を訪ねよう」 11月 30日(日) 9:00~12:00

③ 支部研修会 「蛇峠」 10月 26日(日) 10:00~15:00

総会終了後の懇親会は、しし鍋を囲み和気藹々のひと時を過ごしました。

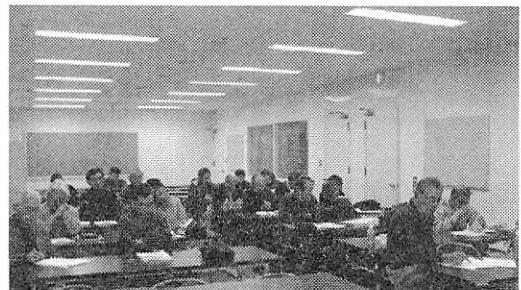
なお、新年度の支部役員は次のとおりです。

支部長 小山舜二、副支部長 村上和彦、庶務・会計(事務局) 山田由乃

平成20年度名古屋支部総会報告

名古屋支部 滝田久憲

平成20年度の名古屋支部総会が1月26日(土)午後2時からあいのNPO交流プラザの会議室Aにおいて、会員25名の参加で開催されました。支部長あいさつの後萩原さんを議長に選び、44名の会員による委任状の提出で、総会の成立が宣言されました。最初に平成19年度の事業報告がなされま



した。大きな出来事としては、会が第14回コカ・コーラ環境教育賞主催者賞の表彰を受けたことです。会場からは、定例観察会を含めて、会の活動で月の土日がほとんど埋まっているので、少し活動を減らしてはなどの意見が出ました。続いて、会計の収支報告がなされ、承認されました。また、平成20年度は役員の改選はありませんが、現行役員が紹介されました。続いて、平成20年度の事業計画とその予算が提案され、承認されました。昨年の指導員講習会で新しい仲間も増えました。こうした新たなエネルギーを取り込みながら、定例観察地などでの自然観察会、各種調査、さらには環境教育に関する事業などの充実を図っていくことが確認されました。

支部長 滝田久憲

副支部長 石原則義、大澤淳二、近藤記巳子、高松一史、

滝川正子、布目均、萩原育男、巾賢治、堀田守

事務局 佐藤国彦 会計 中西倜夫

監査 長谷川紀男

知多支部 秋の研修旅行

晩秋の隣県・静岡西部域の自然を訪ねて

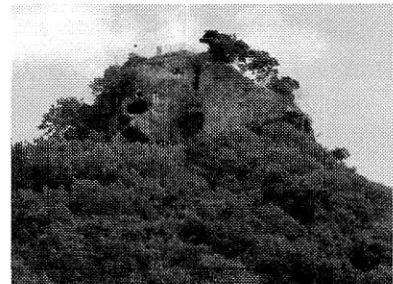
知多支部 小川 展弘

知多支部恒例の研修旅行は、西三河支部の皆様にお世話になった春の部に対し秋は隣県静岡県の西部域・遠江がプランニングされました。11月17日(土)から18日(日)の旅程で、東海市役所を出発、国天・浜北大力ヤノキ、同・県立森林公園、豊岡村・獅子ケ鼻公園、周智郡森町・小国神社参詣、牧の原市・相良油田跡の見学、磐田市・桶ヶ谷沼、同・国天・熊野の長フジの名勝など、それは盛沢山の観察・見学でした。幸い2日とも晴天で途中合流者を含め総勢21名の参加者でした。

『静岡県西半部の地勢』日本列島の中央部を糸魚川から静岡までのほぼ南北に横切る大断層、中央構造線が走っています。その西半部が総長213kmに及ぶ天竜川が開拓しながら遠州灘に注ぐ下流部に当り、磐田原、三方原、牧の原の各台地は洪積世(今から約200万年～1万年前の新生代第三紀後半～第四紀前半)の地質時代のものです。その地層は厚い砂礫層から成り立っています。遠江域は私たちの住む尾張地域が高温多湿の夏や伊吹おろしの冬など寒暖の差が激しい気候とは対照的で温暖な気候風土です。年平均気温16°C以上、降雨量2000mm内外です。

『観察・紀行記』

- ①国天・浜北の大力ヤノキ:最初の観察サイトです。幹径1.8mはあろうと思われるカヤノキの巨木が目に入りました。直立し、よく分枝しています。高さ22.3m、根元廻り15m、推定樹齢600年の由。その周辺には可憐な濃桃色の花を付けたマルバマルコウやハゼランの根元に落ちているカヤの実を見つけました。ホトケノザ、ハルノノゲシなどに別れを告げ次の観察スポットに向かいました。
- ②浜北・県立森林公園:人気のある公園のようで駐車場に苦慮しました。毎週土曜の「自然を歩こう」、「野鳥観察」等の行事と重なった様です。ヤシガラマットに芝張りした独特の屋根緑化を施したビジターセンターで案内書を頂き、『うぐいす谷の道』と『小鳥の道』のコースを選択し、出発。自然植生のアカマツ林の中、ツクバネ、ウツギ、ソヨゴ、ヤマツツジなどの陽性植物も活き活きしていました。西ノ谷奥池周辺のナンキンハゼの見事な紅葉を愛で、中米原産地のモミジバフウ(紅葉楓)の黄緑色を帯びた雌花の球形花序を皆で収拾、互いに衣服に付け合いました。自然と人との”共生”を目指し四季折々の活動を実践しているセンターにエールを送っていると、尾を振ってピヨコッと頭を下げ移動の無事を祈る風情のジョウビタキに別れを告げて、園をあとにしました。
- ③豊岡村・獅子ケ鼻公園:村の東地区、敷地という所に立地し約100m程の切り立つ崖上に獅子の鼻を象った岩がそり立っています。公園の入口には薬師堂があり祀られている馬頭観音を参拝、順路に従いアカマツとウラジロ群落を抜けると岩の頂にある公園に辿りつき記念撮影をした後、昼食を採りました。三方の切り立った崖風情や直下の吊橋の揺れ等スリリングな体験をしました。
- ④周智郡・小国神社:同郡森町に鎮座、ご祭神は大己貴命(オナムチミコト)、即ち、神話「因幡の白うさぎ」でお馴染みの優しい神様、大国主命(オオクニヌシミコト)です。ただし、頂いたパンフレットによると古事記、日本書紀には他にも多くの神名が伝えられ國中の悪い神様を追い出し平和な國に治められたと伝えられるなど、など、偉大で尊くご神徳があった神様のようです。明治6年に國幣小社に列せられ現在は遠江国一宮として広く信仰を集めている由。



獅子ケ鼻公園

⑤宿泊地・コテージ/アクティー: もてなしの心尽くしに包まれた美味しい夕食を採った後、灯火採集をしました。同宿のサッカーボー少年達も訪れ虫観察や手裏剣づくりに興じていました。灯火に集った虫さんはヒメヤママユガ、ナカウスエダシャク、ヒメガガムボ、トビゲラなどで時節柄か、やや少な目の感触でした。翌朝、コテージ出発前にはハナムグリ、ツマグロオオヨコバイ、ジョロウグモなどが観察できました。



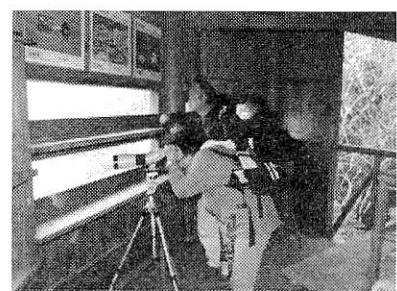
コテージ/アクティーの前で

⑥牧の原・相良油田跡: 富田松夫さんから油田の開坑史や所有の油井跡の現地案内を頂きました。太平洋岸で唯一の油田で、かつガソリン留分が34%と多く、重油留分が僅か9%の良質な原油として明治6年から83年間、牧の原地区の産業の一部に貢献したそうです。近くにある富田さんのイチジク畑に往時を髪髪とさせる深さ320mの油井跡を見学、皆で目と嗅覚で原油を現認、御礼を述べ現場を後にしました。



富田さんの畑の油井跡

⑦御前崎灯台: 冬型の気圧配置に加え地形からくる独特の強風下、海岸に降り立つと砂混じり風を受けながら砂浜で当地の銘貝ツグチガイ、チリボタン、カモメガイなどの採集と漂流物観察に時の経つも忘れました。歴史を紐解いてみると今から370年前、江戸初期に灯台の元祖ともいえる'あんどん型'の灯明台を建てたのが当灯台歴史の端緒です。明治5年英国人指導の元、国初の西洋式の回転閃光レンズの灯台として運転開始、建造以来130年超経過しています。風の当らない休業中のレストラン入口で皆が車座になって昼食を楽しく採りました。



桶ヶ谷沼

⑧磐田市・桶ヶ谷沼: ビジターセンターを訪ねスタッフ・原さんから説明を頂き西岸に設置の観察舎で沼に飛来の冬鳥観察をしました。当沼は磐田原台地の東谷間に大地から水が浸み出してできた県自然環境保全地域の沼です。谷の西側は林に囲まれ排水など人為的な汚染が無く昔ながらの動植物が生息しています。特にトンボは日本一の多産地として有名で国内30%強の67種が観察されているそうです。中でも環境省・絶滅危惧種指定のベッコウトンボは体長4.5cm、4~6月に見られ打水産卵種です。観察を終え大きな虹の輪に送られながらセンターを後にしました。

⑨豊田町・熊野(ユヤ)の長フジ: 今回研修旅行の最終コースです。シーズン・オフの時期、事務所は休館中でした。行興寺境内約500坪の敷地内に紫房5尺(=1.5m)以上に垂れる国及び県指定天然記念物のフジです。平安の昔、『いかにせん都の春も惜しけれど なれにし東の花や散るらん』との歌を詠み、主人・平宗盛の心を動かし、里帰りが適った謡曲「熊野」で有名な熊野御前がお手植えになったと伝えられています。境内フジ棚近くには熊野御前の墓があり今でもシーズン中はフジの色香を楽しんでいるのでしょうか。歴史ロマンに暫時浸り、夕闇迫る境内を後に一路、知多半島に向け出発しました。

ふるさと自慢

尾張支部 樋口 祐子

私のふるさとは青森県の弘前市です。ふるさと弘前と言えば、何といつてもねぶた祭り。他にもりんご、りんごジュース、津軽三味線、けの汁、弘前城さくら祭りなどなどいくらでも上げることができます。時々テレビドラマや推理小説で弘前城殺人事件とか津軽弘前殺人事件などと目にして、はっと思うことがあります。

今回は夏に訪れた下北半島の仏ヶ浦と恐山を紹介します。

弘前でねぶた祭りを堪能した後、野辺地駅から都合よく、『きらきらみちのく下北号』(夏場だけの運行)に乗り継ぎ、車窓に映る陸奥湾の眺めに感動しながら、一路、仏ヶ浦へ。仏ヶ浦へは佐井港から船で出発です。20分位すると巨大な岩々が見えてきました。白緑色の凝灰岩が2kmにわたって連なり、それぞれが趣のある形を表しています。その奇岩のいくつかに五百羅漢、屏風岩、如来の首、一つ仏と名前がついています。長い年月をかけて、風雨に洗われてできた自然美のスケールの大きさに圧倒されました。30分位上陸し、間近に巨大な奇岩を見上げながら、仏様が宿っているような岩々の神秘な雰囲気を味わいました。船着き場の辺りは、水が本当に澄んでいて、ウニがあつちにもこっちにもたくさん見られ、その辺一面を覆うほどでした。奇岩に別れを告げ、恐山に向かいます。

恐山は日本三大霊場(恐山、高野山、比叡山)の1つで、今からおよそ1200年前、慈覚大師円仁によって開かれた霊場です。総門からまっすぐ進み、地蔵殿から左手に入ります。その時、目の前に現れた不気味な光景に一瞬はっとしてたじろぎました。小高い丘になっているのですが、向こうには湖も緑豊かな山々も見えるのに、ここだけは立ち込める硫黄のにおいと雑草1本生えていない荒涼とした岩だらけの風景で、まさに地獄はこういうところだろうなと思いました。真っ赤なかなざぐるまがぽんぽんと立っていて、それが時々、からからと音を立てて回っているのを見ると、何とも哀れを誘い、地獄と極楽の異空間にしばし立ち尽くしました。恐山といえばイタコの口寄せで有名ですが、イタコは7月20日から24日の大祭のときしか見られないそうです。

親戚の家でごちそうになったホタテ料理がとてもおいしかったです。

下北半島には下風呂温泉や薬研温泉などの温泉やマグロの1本釣りで有名な大間港など見どころがいっぱいです。今年の夏はねぶた見物や下北半島の旅にぜひお出かけください。



仏ヶ浦



恐山

私と野鳥

尾張支部 佐々木和治

私と鳥との出会いは、小学生の時セキセイインコを飼育した時に始まります。数年、セキセイインコの飼育をしましたが、繁殖する事も無く終わってしまいました。

成人してから鈴鹿の山にちよくちよく出かけるようになりました。山に行くと、いつも林の中で美しい声で野鳥が囁っています。ウグイスは解るのですがあの野鳥の声はさっぱり解らずいろいろする日々でした。何とかあの美しい声の持ち主が解らないかと長いこと思い続けていました。

そのような時に、探鳥会の案内が新聞に載っていました。早速、申込みまして東山植物園探鳥会に参加しました。この時初めてセグロセキレイ・ホオジロ・ヒヨドリ等をプロミナーで見せてもらい、すっかり野鳥の虜になりました。ここで日本野鳥の会が、毎週のように探鳥会を開いているのを知りました。早速、日本野鳥の会に入会しました。最初の頃は弥富野鳥園・庄内川河口・東山植物園によく出かけました。参加するたびに新しい鳥に会えて、探鳥会が待ちどおしい日々でした。

日本野鳥の会愛知県支部に入会後は保護部に参加しました、藤前干潟の野鳥生息調査に参加し、この野鳥生息調査で干潟・河口でのシギ・チドリのほとんどの種類（この付近で見える野鳥）を見せてもらいました。水鳥も沢山覚えることが出来ました。又、藤前干潟がこれだけの野鳥が生息する重要な干潟である事を身をもって体験することができ、その後の藤前干潟を守る運動に参加する足がかりになりました。そして、藤前干潟が保全され、ラムサール条約の登録湿地なった事はとても嬉しかったです。

昭和 22 年に使用が禁止されたはずのカスミ網がいまだ野鳥の捕獲に使用され、秋にはツグミをはじめ野鳥を一網打尽に捕獲するカスミ網が猿投山付近・岐阜県東濃地方にまだ現存していました。私たちはそう多くの現地は行けませんでしたが、最初の頃は半分近くの場所にカスミ網が張って有りました。その後の法改正で、カスミ網を所持しているだけでも法律違反に成る事が決まり、めっきり減りましたが、現在でも年間 10 件近く、カスミ網を張っていて逮捕される人が出ています。中々止められないのですね。

海上の森の保全に参加できましたことも、記憶に残ることです。平成の初めごろ瀬戸市に自然が残った里山が有るので、日本野鳥会愛知県支部で探鳥会を始めてはとのアドバイスを頂きました。早速、下見に行きましたが、本当にほとんど日本産の植物で構成されている里山でした。それが海上の森に足を入れた第一歩でした。翌年から日本野鳥の会愛知県支部の定例探鳥会になりました。私はメインのリーダーを 2 年努めましたが、私の家からは遠いのでメインリーダーをおろさせて頂きました。海上の森探鳥会で、数が少ないサンコウチョウ・サンショウウクイ・オオタカ・オオルリ・キビタキ等の野鳥が見聞きできる貴重な場所であること、又前 5 種とも繁殖が確認されました。特に世界的に数が減っているサンショウウクイ・サンコウチョウが繁殖できる、愛知県はもちろん日本でも貴重な場所である事を私たちは確認しました。

現在までに、110 種以上の野鳥が確認されています。日本野鳥会愛知県支部の定例探鳥会のデータにより海上の森でオオタカの繁殖が確認され、海上の森を開発して行う予定だった国際博が、最終的に海上の森は一部のみを使用し、メイン会場を青少年公園に変更して開催されました。

藤前干潟の保全・海上の森での国際博が縮小された事に関わったことを嬉しく思っています。現在は日本野鳥の会愛知県支部の役員を降り、毎日、犬の散歩で家の周りの野鳥を見るのが日課です。写真は、散歩コースで見たオオタカです。



知多の海岸生物2

カモメガイ（穿孔貝のなかま）

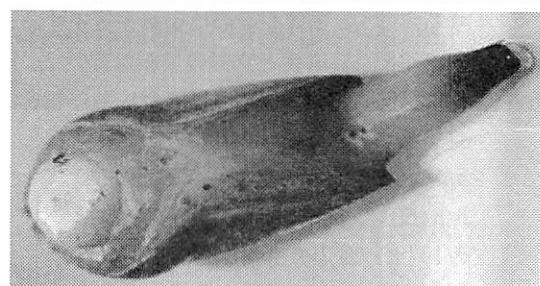
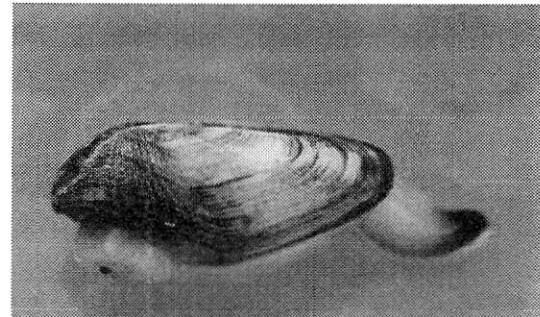
知多支部 中井康夫

十年ほど前、富具崎の磯浜ではよく見慣れていた穿孔貝〔せんこうがい〕のカモメガイを自宅近くの干潟の転石で見つけ、その生き様に感動してしまった。まさか、こんなところ（磯浜と離れた紛れもない内湾）にいるとは思っていなかったからである。その頃は、海と言えば、干潟より生き物の種類が豊富な磯浜にひかれて、暇があれば出かけていた。一年を通していろいろな潮の海を見るのだと意気込んでいた。オキナガレガニという漂流するカニもその頃見つけた。だから、たまたま出かけた干潟の転石の穴から妙なものが水中に顔を出しているのを見たとき、私は

「転石から水中へ伸び出している変わった生き物を見つけた！」と思い、逃げてしまわないことを祈りながら何の仲間かを知るために実体の動きを必死で見つめていた。何とも決めがたく、岩をやさしく場所移動して割ってみた。すると、中からカモメガイが現れたのだ。当ては外れたが、カモメガイは岩の中に体を隠して、小さい穴から水管だけを出して、えさを食べたり、呼吸したりしている。つまり、カモメガイの穿孔とは、『こういうことだったのだ。

（生態）』ということが分かったのだった。殻は岩の中なので、普通の二枚貝の殻よりもかなり薄く、ふくらみが大きい。前端は放射肋と成長脈でおろし金状になっていて、円柱状の足は吸盤のようになっており、穴の底に吸着し、それを支点として殻を回転させると、穴を拡大する仕組みになっている。

穿孔貝は、海藻の一部が付着して打ち上げられた岩を観察すると、よく見つかることが多い。イシマテガイという穿孔貝もそういう偶然がないと、なかなかお目にかかれないと。



編集部より

前号まで「観察会あれこれ」と表示していましたが、今回から「海の生き物紹介」としました。

第4回理事会

日時：2/16（土）13:30～16:20

場所：愛知県勤労会館 鶴舞プラザ

出席者：松尾、降幡、石田、大谷、近藤、
斎竹、佐藤、永田、布目、堀田、
山田、吉田、吉川、滝田、樋口、
小山、岩崎、山下

進行：松尾 記録：近藤

議題

1. 総会議案内定

（各担当理事からの提案を元に審議）

■研修担当

特定のフィールドに偏りがちな研修を解消する意味で、支部を中心に研修を実施することを承認。協議会と支部の協働にて行う。研修に係る費用は20年度理事会にて詳細を決定することを承認。

5/18（日）海岸の生物（知多支部）

6/8（日）シダ植物研修（尾張支部）

7/19（土）海辺の生物（西三河支部）

8/31（日）御池沼沢植物群落（名古屋支部）

10/5（日）大原調整池周辺自然観察

（東三河支部）

10/26（日）蛇峠（奥三河支部）

※ 県のフォローアップ研修

（県担当者によると検討中のこと）

■企画担当

別紙、タイムテーブル参照

■観察会担当

「ふるさと親子自然観察会」の名称を、参加者を限定する“親子”を削除し、より多くの人に参加を促す「あいちの自然観察会」に変更することを承認。

奥三河支部

5/11（日）「新緑の裏谷を訪ねて」

尾張支部

5/25（日）「初夏の海上の森を歩きながら
虫や花を探そう」

東三河支部

6/1（日）「豊川放水路のいきものたち」



名古屋

6/14（土）「猪高の森の生き物」

名古屋市名東生涯学習センター前集合

知多支部

6/21（土）「海辺の生き物」

西三河

8/2（土）「田んぼとため池の観察」

豊田自然観察の森P集合

■会計担当

別紙、決算報告及び予算報告を承認

■ 3/20 総会当日午前の交流会及び午後の

総会・講演会のフロー及び役割分担

・午前：情報交換＆交流会 クラフト・写真・
絵画等の実演・展示・即売を中心に情報交
換交流

・午後：総会及び講演会「地球温暖化」講師：
愛知教育大学教授 大和田道雄氏

○役割分担

総会受付：樋口祐子 司会：堀田守

議長：降幡光宏 書記：佐藤国彦

会計代読：斎竹善行

2. 20年度理事について

会長：松尾初

副会長：降幡光宏

事務局：未定

新任：浅井聰 高橋康夫 監事：榎原靖

退任：鬼頭弘 佐藤国彦 堀田守

3. NPO化について

継続審議とすることを承認

■ 会員情報について

○新入会員 ~活躍を期待します~
 石黒 修さん(知多支部)
 〒470-2413 多郡美浜町古布屋敷 145-3
 (0569) 82-2257

☆逝去 顧問:原田猪津夫さん
 謹んでご冥福をお祈りします。

■ 連絡先などの変更は早めに



春は転出入の季節です。
 みなさん、転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更があれば、速やかに事務局までご連絡

■ 原稿募集！！



「協議会ニュース」掲載用の原稿を下記の通り募集しています。

①表紙の写真・イラスト

②自然観察についての連載原稿

※以上 2 件は、来年 H21 年 1 月より隔月に 6 回連載予定のものです。

③豊かな自然セレクション 100

④調査・研究のレポート

⑤会員のページ原稿

自然・環境等に関する書籍紹介、紀行文、その他

◆①②については、編集計画の都合がありますので、3 月中に連絡を願います。

◆③~⑤につきましては、随時募集中です。

(以上、編集部)

=3月20日(春分の日)=

~~ 情報交換 & 交流会 ~~

クラフト・写真・絵画等の展示と即売

Here we go!

会場:中京大学文化市民会館
 (旧 名古屋市民会館)

総会に先立ち 3/20、10:00~12:00 に、さまざまな作品を通して情報交換を行うと共に交流の場をもつことになりました。平成 15 年の総会に参加された方は記憶にあるかと思いますが、クラフト作品、書籍等のフリーマーケットを行いましたが、今回はその拡大版となります。当日は作品を持参しクラフト材料の採取・保管法や作成のコツをみなさんへ伝授していただきても、また完成品を即売していただいても OK です。写真、絵画、絵手紙等の作品のある方は、作品展示や即売も可能ですから是非どうぞ。会員の作品の数々を見て、聞いて、また自身の作品の披露をして交流しましょう。

当日は、マイカップをお忘れなく！ おいしいお茶とお菓子を準備します。カップ片手にカフェ気分で交流しましょう。



再利用可能な封筒を持参下さい。

会では、機関紙発送をリユース封筒にて送付しています。県内各地で観察会を通して環境保全活動を実施していますが、フィールドのみならず物を繰り返し活用することで環境保全を心がけたいと思っています。発送担当の方と会員のみなさんの協力・理解の上で実施し、昨年 19 年度は、リユース封筒での発送は合計 1072 枚でした。経費的にも 1 万円以上の節約となりました。

今後も継続しますので、総会当日、再利用可能な封筒を持参下さい。封筒は、機関紙 (B5) が封入できれば B5・A4 版、いずれも OK です。(以上、事務局)



行事予定



■総会（詳細は p2 をご覧ください。）

日時 平成20年3月20日（祝）

場所 中京大学文化市民会館（旧 名古屋市民会館）

■5月の行事

総会での承認前ですので、とりあえず5月中に計画されているものの日程/テーマ/場所を紹介します。詳細は5月号をご覧ください。

あいちの自然観察会（従来の「ふるさと親子自然観察会」に該当するもの）

○5/11(日)「新緑の裏谷を訪ねて」（段戸裏谷）

○5/25(日)「初夏の海上の森を歩きながら、虫や花を探そう」（海上の森）

研修会

○5/18（日）「海岸の生物」 鬼崎蒲池漁港

＜編集部からのおしらせ・おことわり・おねがい＞

- ◎ 協議会ニュースは会員のみなさんに、協議会・支部の行事や会員の活動状況をお知らせする媒体です。No.117の内容についての感想やご意見をお聞かせください。
- ◎ また、みなさんから掲載して欲しいというものがありましたら、編集部まで原稿をお寄せください。なお、紙面構成の都合等で、原稿を内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。あらかじめご了承ください。
- ◎ 協議会ニュースは年6回奇数月に発行しています。この発行頻度について、ご意見をお聞きしたところ、回答数は多くありませんでしたが、6回が妥当であろうとの結果でした。

編集後記

昨年、編集スタッフになり、今回で4回目の編集作業（No.117）を終える事が出来ました。分からぬ事は先輩スタッフに教えていただきたりしたおかげで、編集作業も少しずつ慣れてきました。

春になると気温が上がり自然観察にはいい季節になりますが、私にとってつらい花粉症の季節到来です。今年の花粉総飛散量の予測は昨年春に比較すると、東日本で1.5倍から3倍、西日本はほぼ平年並み、スギの飛散開始日は例年に比較して5~10日程度早くなるそうです。

しばらくの間、辛い日が続きますが、花粉症の方、がんばりましょう。
(酒井)

編集スタッフ

岩沙 雅代	岡田 雅子
近藤 記巳子	齋竹 善行
酒井 勇治	永田 孝
山口 健	横井 邦子

協議会ニュース編集部

〒482-0007

岩倉市大山寺元町 12-3

齋竹 善行

メール：BZA03620.nifty.ne.jp

■愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 名古屋市南区鳥栖 2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460

■Web Page : <http://naichi.net/>

■郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）

■郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）